

「これはわたしの愛する子」(マコ 9:2~10)

六日の後、イエスは、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを連れて、高い山に登ります。山の上で弟子たちの前でイエスの姿が変わるのです。「姿が変わる」と訳されている単語は神々が人間に姿を変えること、あるいは人間が神々の姿になることを言い表す言葉です。イエスは弟子たちの前に神的な存在として現れたのです。エリヤとモーセと共に語り合っているイエスを見たペトロは仮小屋を建てようと言います。その時、雲が彼らを覆い、イエスら三人の姿を見えなくし、雲の中から「これはわたしの愛する子。これに聞け」という声がします。この山上の変容の物語の中心はイエスを「わたしの愛する子」と宣言する神さまの声です。この言葉はヨルダン川でイエスが受洗した時に天から聞こえた声と同じです。著者はイエスは受洗の時「神さまの愛する子」としての歩みを始め、この受難の道も「神さまの愛する子」としての道であることを示すのです。この「聞く」と訳されている言葉は「聞き従う」という強い意味をもっています。ペトロはイエスが死と復活を予告した時、イエスを諷め、イエスに厳しく叱られてしまいました。この時も訳も分からないまま、仮小屋を建てて、自分の下に留めておこうとしました。これらはどちらもイエスに聞き従うことではなく、自分の理解や願望に合わせようとしたのです。このような弟子たちに、「イエスの言葉に聞き従うように」と神さまが語られた、と記しているのです。

8節の「ただイエスだけが彼らと一緒におられた」という言葉は印象的です。多くの苦しみを身に負って、十字架の死へと歩んでいるイエスが弟子たちと一緒にいるのです。イエスの変容の姿は受難のイエスに聞き従うように弟子たちを励ますものでしたが、弟子たちは結局聞き従うことができませんでした。イエスが逮捕された時、「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった」と記しています。弟子たちはイエスの十字架の死と復活の後で、イエスの受難と復活の本当の意味を理解し、従う者となり、人々にイエスのことを伝えました。著者が実際目にしているのは、復活させられたイエスのことを宣べ伝えている弟子たちの姿でした。私たちは終りの日にイエスが再び来られ、神さまの支配が完成するのを待ち望んで歩んでいます。その時がいつで、それはどのようなものなのか、は分かりません。しかし、確かにその時が来ることを信じて、イエスの言葉を心に留めて、神さまを信頼し、神さまと共に歩むのです。それはイエスの復活によって、神さまの支配の完成が先取りされているからです。